

はじめに

苗木は地中に根を張って生きている。それを土地から掘りあげて、運搬して、山に植え付ける。

その間はちょうど水から上げられた魚のようなもので、苗木にとっては一生の危機であり、この間の取り扱いの良し悪しが苗木の造林地での活着と、その後の生育に大きく影響することになるので、特に注意しなければならない。

そこで、スギ・ヒノキ苗木の掘り取りから植付けが終るまでの適切な取り扱い要領を示すことにする。

1 苗木の性質

苗木は、根の先端にある白根で養分や水分を吸収して生長している。ところが苗木を掘り取ると根の先端部の吸収根はほとんど無くなってしまっている。

そのため、苗木の根は水や養分を運ぶ管だけの状態になっている。

苗木が造林地に植え付けられて活着し、生長をはじめするには、切断された根から新しい根（白根）を出して水や養分を吸収しなければならない。

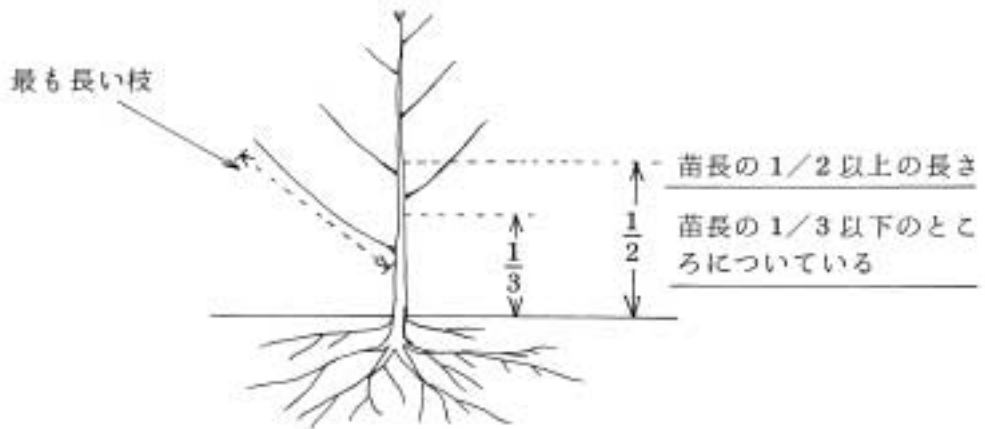
この白根の発根には、苗木の体内に貯蔵された養分、特に苗木の下枝の部分にある養分が関係するといわれ、殊にリンサンが必要といわれている。

そのため、ずんぐりした下枝のよく張った苗木が良い苗木ということになる。

2 良い苗木とは

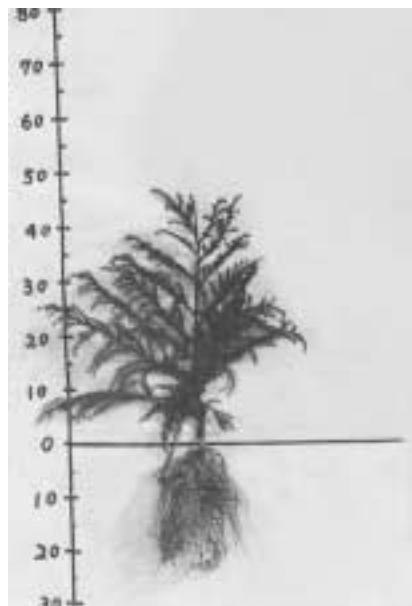
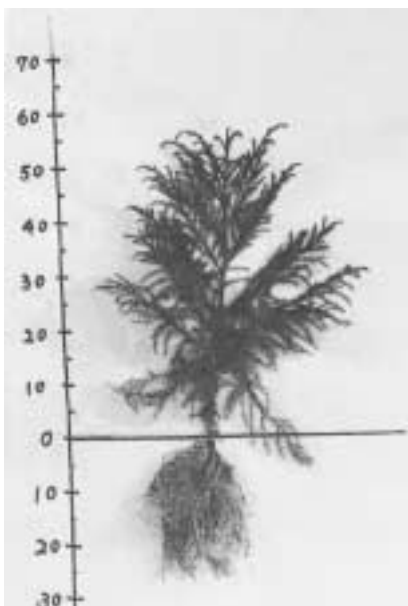
良い素質をそなえ、規格に合っているもので次のような苗木をいう。

- (1) 発育が健全で、充実していて、下枝が四方によく張って梢端の芽の太いもの。
- (2) 最も長い枝が苗の長さの1 / 3以下のところについていて、その長さが苗の長さのほぼ1 / 2以上あるもの。



- (3) 根元径の太いもの。
- (4) 太根が四方によく発達していて、ヒゲ根が適当に着いており、根がからまったり、曲ったりしていないもの。
- (5) 着花・結実していないもの。
- (6) 病虫害にかかっていないもの。

良い苗木

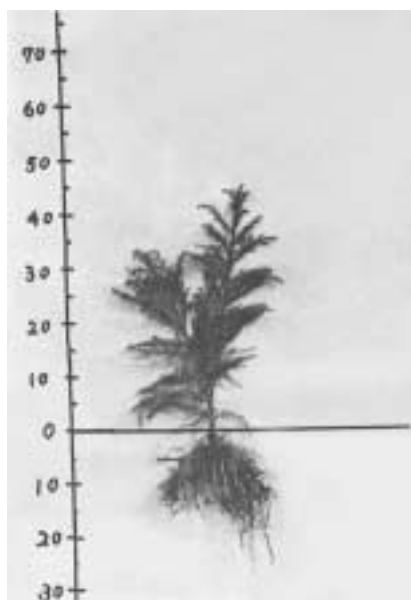




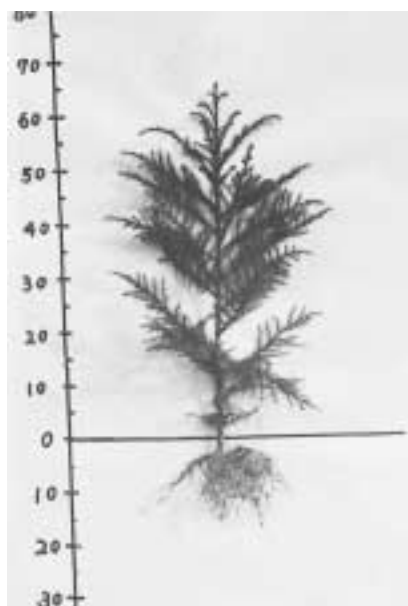
側枝の先端で、梢端がかく
れるくらいの苗がよい。



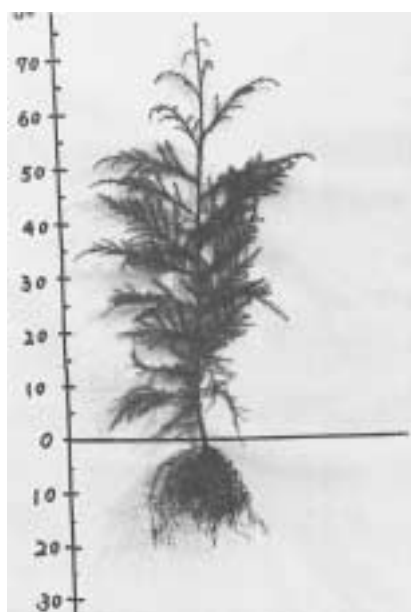
良くない苗木



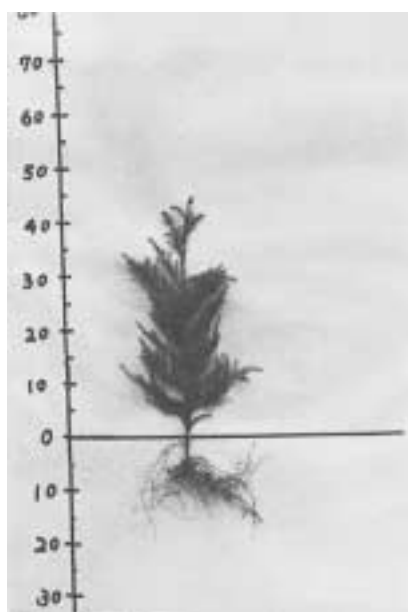
ふたまた



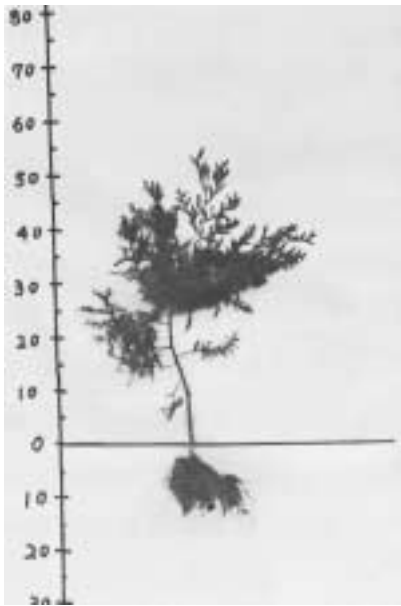
花がついている



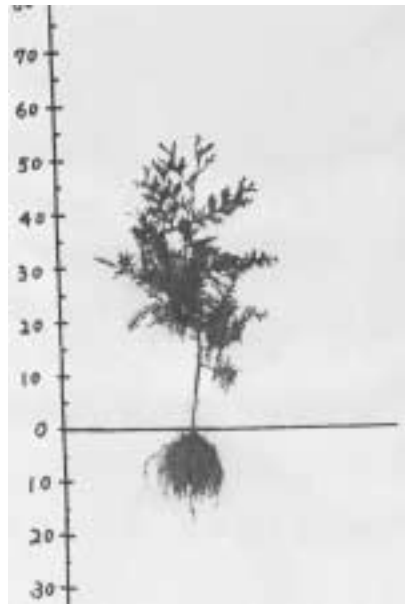
徒長
(秋伸び)



下枝貧弱



下枝貧弱・幹曲り
(毛苗が大きすぎる)
(とこな苗になる)



下枝貧弱



徒 長
(秋伸び)